

石川県育成会だより

No. 23

発行日：令和5年12月15日
発行：公益社団法人
石川県手をつなぐ育成会
〒920-8557
金沢市本多町3-1-10
石川県社会福祉会館内
TEL 076-264-1717
FAX 076-264-2434

「共に生きる社会」

石川県手をつなぐ育成会会長 藤井 優

育成会会員の皆さま、日頃より本会の事業にご理解とご協力をいただき感謝いたします。コロナ禍も4年目にして感染症5類に移行されたことで社会活動が平常に戻ってきました。石川県内では10月から第38回国民文化祭と第23回全国障害者芸術・文化祭が、天皇皇后両陛下の御臨席の下に開催されました。県立音楽堂で開かれた「きらめく個性全国障害者作品展」には、私たちが取り組んできた第3回アール・ブリュット展石川に出展された作品も数多く出され、本事業に貢献できたのではと思っております。



コロナ禍の間、育成会の組織活動が停滞してきたことは否めません。10月に開催された育成会東海北陸大会（愛知県）でも、「どうする育成会」～次の世代につなげていくために～というテーマに絞ってディスカッションが行なわれ、まずは会員同士が楽しんで参加できる活動を通じて活性化していくことが重要との方向性が共有されました。

育成会活動には、障害福祉制度を整備・推進し、利活用するという目標があります。そのためには研修等で福祉サービスの実態を理解し、改善を求める運動体としての役割があります。また一方で障害のある人やその家族が、幸せを求めて寄り添う集団でもあります。障害のある人も、その家族も、支援者も、人生を楽しむ人でありたい。

私たちは共生社会の実現を求めますが、私たち自身が苦しい中であっても（頑張っているだけでなく）日々の生活を楽しんでいる人であること。そのことが共に生きる社会を形作っていくうえで、必要な要素でもあると感じています。

来年2月に開催する合同研修会では、「手を離しても大丈夫」～その日のために～をテーマに、日本福祉大学教授・社会福祉法人睦月会理事長 綿 祐二先生の講演を企画しました。講師が障害のある人の家族、きょうだいの一人として、また福祉の現場で携わられた経験をお聞きして、親離れ、子離れ、きょうだいとの関わりなど、私たちが人生の各ステージで取り組まなければならない事を一緒に考える機会にしたいと思います。

令和6年4月から、児童発達支援センターの役割強化や、居住支援・グループホーム等の制度強化、自立支援や就労支援など、日常生活に直結する項目において改正法が施行される予定です。

全育連久保厚子顧問（前会長）が参画してきた成年後見制度の見直し議論についても、民法改正にまで踏み込んだ「必要な時だけ後見利用」など、制度の抜本的見直しを求めて現行では使いづらい制度の改善が期待される所です。

育成会活動の着実な歩みで、障害があっても、親なきあとも、社会の中で明るく生きることができる「共生社会」の実現を果たしていきましょう。



大会報告

「第55回手をつなぐ育成会東海北陸大会に参加して」

愛育学園保護者会 藪上 猛

令和5年10月7日、愛知県刈谷市で開催された「第55回手をつなぐ育成会東海北陸大会」に参加させていただきました。この大会は、「どうする育成会」~次の世代につなげていくために~とのスローガんで開催されました。

大会の概要は、来賓の挨拶などを省略すると、二つの推しが挙げられます。その一つは、又村あおい氏による「中央情勢報告」で、もう一つは、4氏による「パネルディスカッション」がありました。この推しにアドバイザーとして加わっていた久保さん(全国育成会顧問)は「何か一つでも持ち帰ってもらえるものがあれば幸いです。」等と言われていましたが、どれも参考にしたいものばかりで大変勉強をさせてもらったという思いで帰ってきました。

私は、入所施設である愛育学園保護者会に所属する者です。この様な立場の者として、又村氏による中央情勢報告では二つほど是非育成会に頑張ってもらいたいと思うものがありました。その一つは「国連による国際条約関係」です。国連は、対日審査総括所見として、障害者の権利を尊重する立場から「入所施設を廃止するように」と言ってきている。とのことでした。息子は重度の障害があり、終日、目が離せない状態です。その様なことからG・Hでの生活は難しく、自宅での生活となると親も社会生活を営むことが難しくなって共倒れになると思っています。国連の動きに対しては、育成会等が意見を出し反論していくとのことでしたが、是非頑張ってもらいたいと思っています。

二つ目としては、成年後見制度に関する報告がありました。私は親一人子一人という境遇のため、やはり親亡き後が心配です。そのため、私が元気なうちにやれることはしてやろうと思い現在活動中ですが成年後見人の選任もその一つで、現在弁護士を後見人として選任しています。ただ、現在成年後見制度については、*身上関係は見てもらえない、*報酬が高い、*一度選任したら変えられない等の批判があって、法務省が事務局となり「成年後見制度の在り方に関する研究会」が立ち上げられたそうです。育成会から久保顧問も委員として参画していて『成年後見人の選任は、継続的な選任ではなく必要ときに選任する制度とすべき』等と意見を出しているとのことでしたが、改善できるところは改善してほしい、育成会には是非頑張ってもらいたいと思って聞いてきました。次に、パネルディスカッションでは、静岡県育成会会長が、組織離れが起きているが、絶やすことは出来ず、育成会活動は続けていかなければならない。その為にはどうするか、自分たちが「子供のために」力の限り努力する。一人の力では何もできない。(組織力が必要)等と発言していましたが、頷ける内容で力強く感じ、深く印象に残りました。

最後になりますが、この大会に参加させていただき、色々勉強させてもらったことに感謝し、得たものは今後の活動に活かしていきたいと思っています。



「東海北陸ブロック大会に参加して」

野々市市手をつなぐ育成会 石上 健一

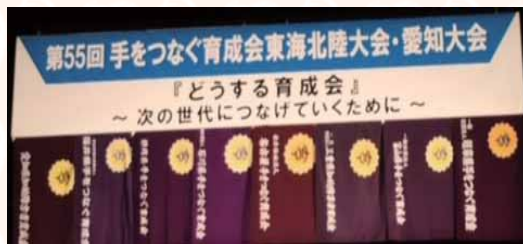
今回は、久しぶりにブロック大会参加となりました。今回の会場は愛知県刈谷市となりました。

移動はバス利用となり、出発は金沢駅西口から7時に出発しました。途中で徳光 PA と小松 IC で一時停車となり、藤井会長はじめ何人かが乗車となりました。目的の刈谷市へ向けて再出発となり、また南条 SA と神田 PA には、

トイレ休憩が計画されており、高齢者としては助かりました。その間もマスク着用となっており感染対策は万全でした。なお高速道路は、いたるところで工事区間が続き減速がありました。昼食は、バス車内で弁当をいただきました。バス運転手さんは長距離運行で2人体制で交代しながら運転しておりました。そうこうしているうちに、ようやく会場に到着しました。

会場は、2階になっておりエスカレーターで上がり、早速受付で「冊子」を受領しました。会場は、思ったより広くはなく、団体行動のため静かに開会を待ちました。

時間がありましたので冊子の開催要綱に目を通すと、気になるところがありましたので再度、確認したいと思いません。趣旨には、…近年は、育成会の存続が難しく、解散するところが出てきています。…国の制度が充実するにつれて、育成会の会員としてメリット見いだせないために退会する人、高齢により事業等に参加できないために退会する人が年々増加傾向にあります。また大会スローガンでは「どうする育成会」とあります。NHKの「どうする家康」ではないですが、何かを考えるきっかけができれば幸いです。



各地区の育成会活動や身近な出来事について

各地区の本人さんやご家族など身近な日常生活の活動や思いを紹介させていただきます。

「総会&茶話会」

小松市手をつなぐ育成会 山田 千春

小松では、この5月に3年ぶりに対面での総会&茶話会を開催しました。当日は久しぶりに顔を合わせる方や、この3年間のうちに新しく入会し初めましての方もいて、まずは自己紹介から始まりました。今の悩み事や将来への不安な気持ちを打ち明けた保護者に対して、先輩保護者の方が寄り添いながら話を聞いて下さり、他愛のない話で盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました。

小松では、facebookや会報にて活動内容等、情報発信をこまめに行なっていたことが功を奏して、離れていた間でもつながりを保つことができたのでは、と感じています。今後も時代に即した活動の形と、今まで育成会が大切にしてきた活動の形の良いところを受け継ぎ、ハイブリッドな小松市手をつなぐ育成会を目指して、活動していきたいと思っています。



「好評だったボウリング大会」

かほく市手をつなぐ育成会

昨年度の事業ですが、児童青年部会で2月に10年ぶりくらいにボウリング大会をしました。ノーガーターレーン&アシストスロウ有り。

当日は盛況でいつもは行事に参加しない若い親子も参加してくれました。健常な兄弟姉妹やお父さんもプレイできたのが良かったのかな？

また、正月の新年交流会(お年玉やおせちがもらえるので、育成会では、最も参加者の多い事業です。)で、返事のない会員さんたちを直接誘ったりしたのも良かったのかもしれない。好評につき今年度も実施予定です。



「小さな幸せに感謝して」

宝達志水町手をつなぐ育成会 小酒 貴代

「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」と職員さんに優しく声をかけて頂き、週末に帰宅する長女。3月に通所から入所に変わりました。8050問題の家庭なのに、なかなか子離れできませんでした。町の会長さんに「お嫁に出したと思えばいいのよ」と励まされ、何とか長女ロスを克服することができました。娘は、時々、情緒不安定になり、迷惑をかけることもあるようですが、職員の皆さまに適切に対処して頂き、感謝の日々です。

姉の様子を見ていた妹も、嫌がっていたショートステイを初体験。楽しかったと笑顔で帰宅し、すぐに次回の予約をしてくれました。週末は、ドライブを兼ねて、3人で食事・買い物・催しものなどに出かけます。遅ればせながら、親亡き後の生活に小さなともしびを見いだせたようで、この時間が少しでも長く続きますようにと、先日、気多大社にもお参りしてきました。

2人の娘のために育成会に関わって35年余り。会員さんのことも気になります。お母さんが病気がちのMさん、Aさん。ご両親亡き後、お兄さんと暮らしているKさん…。行事に参加できなかった方にお土産を届けると、満面の笑顔で受け取って下さいます。皆さんに喜んで頂けることにも感謝です。笑顔の花がいっぱい咲くように、もう少し頑張りたい!と美しい秋(人生)の夕陽を見つめながら思いを巡らせています。



「親子療育の集い」

金沢手をつなぐ親の会 羽石 美友喜

年に一度、息子と二人で心待ちにしている親の会恒例の一泊旅行。ようやく通常のお泊りができる旅行に戻ることができました。息子と二人きりでなんて、旅行自体楽しいのですが、その中でも楽しみにしているのが、夜のカラオケ大会です。いつもひっこみがちなわが子が、この夜だけは自分から舞台上がるのです。うまく歌えなくて大丈夫なんです。だってみんなで心から応援してくれるんですもの。心強いから自信をもって歌いきれました。舞台でのあの笑顔、皆さんのあたたかな拍手、これ以上の幸せはありません。この旅行のすべてが、私にとって生きがいの一つです。

来年度、金沢手をつなぐ親の会は、五十周年を迎えるとのこと。いつの間にか時は経ち、お会いできなくなって寂しかったのですが、親の会で先輩お母さん方に教わってきたように、親子仲良く、時に厳しく、心と体を大切に100周年旅行の参加を目指したいと思います。



「ジンベイザメは今日おらんかな・・・」

能登町手をつなぐ育成会 鍛冶谷 真一

今日のためにインフルやコロナにかからないように気を付けました。11月1日。今日は待ちに待った「のどしま水族館」への小旅行です。秋晴れの下、きれいなでっかい観光バスで出掛けました。

助六寿しのお弁当も配られ、緊張感もほぐれていつの間にか笑顔でいっぱいになりました。昔は、淡路島や小豆島、大阪、なばなの里などへ保護者の方もたくさん参加してもらって出掛けました。コロナ禍もあつたりして、出掛けることも少なくなりましたが、日常から解放されるこんな一日がみんなのビタミン剤になることを再認識させられました。



「ドキドキする」

白山市手をつなぐ育成会 南任 幹子

「ドキドキする…」生まれつき知的障害を持つ長女。初めて自分の感情を言葉にできたのは、太鼓出演を舞台袖で待っている時でした。彼女なりに感情が育ち、言葉で伝えてくれた娘がとても愛おしくその場で涙があふれた事を覚えています。

「ドキドキする…」「トラックの運転手が僕のこと見ている、追いかけてくる。」高校3年の冬まで元気にすくすくと育っていた次男。笑顔が消えた息子につけられた病名は統合失調症。あまりにも突然の事に我を失うほど泣き明かした夜を覚えています。こうして私は障害を持つ2人の子供の親となりました。

当時大学生だった長男を含め、3人の我が子が発信する何気ない言葉や感情を見落とさないよう接してきました。それでも新しい環境に戸惑い、弟妹の不調を目の当たりにする生活の中、気持ちのやり場のない長男が「あいつらに障害があったら俺も障害者なんか!？」と言った時、私は何も答えられませんでした。様々な葛藤、それぞれの悩み、思い返せばいろんな事がありました。

現在、長女はグループホームに入所し、次男は福祉作業所に通所しています。長男は結婚して2児の父親となりました。私は次男と同じ作業所で働いています。朝の出勤時はにぎやかです。いろんな個性を持った人が出勤してきます。メソメソしている人、プンプン怒っている人、ニコニコ機嫌な人…。「おはようございます」と声を掛け、利用者さんの気持ちに寄り添いながら、「今日はどんな1日を過ごすのかな?」とグループホームにいる娘のことを思います。お父さん、お母さんは我が子が仲間と仲良く、楽しく笑顔で過ごせることを願って送り出している事でしょう。私や我が子の経験を少しだけ活かし、すてきな支援を目標に今朝も職場に向かいます。行ってきます!



「4年ぶりのお泊り旅」

輪島市手をつなぐ育成会 坂下 美佐子

2023年のスポーツの日、10月9日の月曜旗日、3連休の最終日、私達は和倉温泉駅から花嫁のれん号に乗り込んだ。花嫁のれん号は皆さんご存知のとおり、石川の伝統工芸がそここにちりばめられたゴージャスな観光列車だ。コロナが収まって人々が動き出してからは大混雑の金沢駅で食事場所の確保に苦労することなく絢爛豪華な車内で予約しておいた美しいお弁当を優雅にいただいた。ウレシー!サイコー!

金沢では石川県立音楽堂交流ホールで自分たちも出品しているきらめく個性!全国障害者作品展を鑑賞し、また、下りの電車に乗って和倉温泉へ。4年ぶりの海望、美味しい海の幸山のごちそうにお酒もちよっぴり!!ずっと我慢していたカラオケ、芸達者な母による演歌(おわらい!!) オンステージ、都合により温泉にゆっくりつかったりつからなかったり(笑) 私たちらしく楽しく小さな旅を終えた。

無理だと思っていたのに奇跡的に花嫁のれん号のチケットが取れた。いやいや奇跡ではなくご縁のある旅行会社さんのご尽力のおかげ!感謝!そして今回何より嬉しかったのは家族以外の友人たちの参加!! 日頃 NPO 法人夢かぼちゃで本人及び家族をサポートしているスタッフの皆さんが友人として旅に参加し一緒に楽しんで下さったことだ。感謝しかない!!自分だけだったら足が不自由な娘とふたりだったら…めんどくさいからやめるか~と思うところだが、皆がいるから実現した旅だった。またプチプチおでかけを計画してフットワーク軽くみんなと遊びたい、また行こうね!!



「特効薬は?」どうする「孤立化問題」

加賀市手をつなぐ育成会 谷井 章

今年度、障がいのある方々の悩み等を把握すべく、アンケート調査を4年ぶりに実施。

【設問】※ご本人およびご家族が不安に思っていることは(複数回答)の問いに対して、回答トップ3は①親や介護者の高齢化や親なき後の生活 ②身の回りの介護 ③ご本人の高齢化と健康・体力と回答した方の割合が圧倒的、その他としては④収入や生活費 ⑤相談相手先など。

この不安の傾向は身体・精神・知的等障がいの種別に関係なく共通した結果に。

前回のコロナ感染広まる前の調査よりもさらに割合が増している状況ある。人と人の関わりやつながりが希薄な社会への変化に急速な高齢化の進展も重なり、このまま放置されれば「社会的孤独・孤立」のリスクが高まり、深刻化が懸念される。「包摂社会の実現」の理念は絵に描いた餅。この先の不安を解消すべく「特効薬」は残念ながら「ない」と言わざるを得ません。

個人の不安や悩みは複雑化・多様化しておりきめ細やかな個別対応強化が求められるが、一朝一夕に解決は困難な状況ではないでしょうか。

国の指針で動き出した第5期障がい福祉計画(平成30年)の重点施策の一つ「地域生活支援拠点化」におけるコーディネーターの配置、社会とのつながりのパイプ役を担うキーマンです。悩みをもつご本人や保護者の相談者になりうるコーディネーター人材の育成と居住地域に根差した配置体制の確立、これこそ「特効薬」の一つの手段として機能することを期待する。

最寄り行政側の理解度を高めるべく、当事者団体として、要請をさらに強化していく。



「残念な悲しい出来事」

羽咋手をつなぐ育成会 張田 千恵子

羽咋手をつなぐ育成会は昭和46年12月にスタートをしました。羽咋授産所は遅れること16年・県下17番目の施設として産声をあげました。

今年に入って残念な悲しい出来事がありました。授産所開設時からの育成会の会員であったお母さんも92才になられ、自営業も廃業されご自身も介護サービスを受ける立場となりました。生活全般をご長男に委ねられて52年に亘る育成会活動を引退されました。知的障がいの65歳の息子さんはB型サービス事業所に開設時から変わることなく通所されておりひとまず安心してあります。

悲しい出来事は50代前半の兄・弟の知的障がいの兄弟のお父さんが急性心筋梗塞で亡くなりました。この二人は10年ほど前にお母さんをガンで亡くされ、その後父親が生活を切り盛りされておられました。しかし、母親が細かいところまで手が届く家事全般のことは男親として苦手であったようです。父親亡き後の兄弟二人の生活は、経過措置としてB型サービス事業所のグループホームでのショートステイの仮住まいがしばらく続きました。父方の家族の親族と行政・法人の協力のおかげで県内の然るべき施設入所が出来ました。

私たちの先輩の方々是我が子の「親なき後」をどうあるべきかと祈りにも似た思いで育成会活動に参加され、数々の成果を残されてきました。授産活動・授産施設の事・組織の法人化の事・医療の事・障がい者年金の事などはある程度の成果を収めているように思います。しかし、「切歯扼腕」現実の実相に直面した時にあまりにも無能です。お互いにコミュニケーションを図ることがいかに重要であるかをあらためて思い知らされました。



「親子療育キャンプ」

津幡町手をつなぐ育成会 稲場 葉子

今年もお待たせしました。バス旅の出発です。

みんな早くから集まり、バスが来るのを首長くして待っています。

ワクワクがこちらまで伝わってきます。

津幡町は7月の豪雨で被災された会員さんもおいで中、防災月間ということもあり、富山県四季防災館にて一人一人消火器を手に初期消火訓練と胴長を着ての流水体験をしました。特に暗い中、冠水した所を歩く体験はとても貴重でした。

防災館の職員さんがお見送りしてくれる中、今度は七尾の能登食祭市場を目指し、能越自動車道を走り市場に到着。昼食とお買物を楽しんだ後、和倉温泉お祭り会館を見学しました。青柏祭(でか山)の綱曳き体験もし、迫力ある能登の祭りを体感してきました。帰りの車中ではピングゲーム大会で盛り上がり、あっという間に津幡に到着。みんな今日一日、羽根を伸ばして楽しんでくれたようです。

感染対策をしながらも実施できホッとしました。親も高齢化し、本人のみの参加も増える現状ですが、この行事は育成会の絆づくりには欠かせない行事のひとつになっています。



「コスパ」「タイパ」「居直りの文化」

能美市手をつなぐ育成会 江前 領

先日初めて県立図書館に行きました。小立野の通りから行ったのですが、どこで曲がればいいのか分からず、ぐるぐる回って漸く着きました。帰りは試しに裏側へ行ってみたら、立派な道ができていてあっという間に田上に出ました。いちおうナビを見ながら行ったのですが、グーグルマップなどでよく調べておけばよかったです。

インターネット検索ができるようになってから、いろいろなことが楽になりました。かつては関係書物を探したり役所の窓口を廻ったりして調べていたことが、家で「ポチッ」で分かるようになりました。それはそれでいいのですが、ときどき行きすぎではないかと思うことがあります。「コスパ」「タイパ」という言葉に表されるように、いかに安く短時間で簡単にできるかを競うような風潮です。

私が若い頃はイージーな方法でやったことは(ラッキーな反面)内心恥ずかしいという意識がありましたが、今はうまくやった方が勝ちです。それがどうしたという「居直りの文化」ともいえます。でも居直りの文化で本物が手にはいるでしょうか。

長年の運動の甲斐あって2年前に能美市に新グループホームができ、娘が入居しました。念願の、休日でも夜でも世話人が常駐しているホームです。そうでなければ重度障害のある娘は安心して住むことができません。運動の甲斐あってと書く私ひとりの手柄のようですが、もちろん関係した方々全員の努力の成果です。タイパを優先して家の「ポチッ」で探していたのでは、とても実現しなかったはず

です。図書館を探すくらいなら簡単なほうがいいですが、やはり労力は惜しまないのほうがいいということですね。



「絵画教室を計画中」

志賀町手をつなぐ育成会 油家 幸子

今年育成会の研修旅行に17人の参加者と、第3回「アール・ブリュット展石川」を見学に行きました。玉川こども図書館の展示場に入ると想像以上に個性あふれて、目を引く色彩の作品や、家族と微笑む姿、中には知っている人の名前もいくつかあり楽しみでした。

その後、県育成会から「絵画教室をしてみませんか」と声かけがあり、勉強会で集まった9人の皆さんと相談したところ「やってみましょう」となりました。これを機会に準備のため母親8人集まりました。コーヒーとケーキセットで子供や世間話で盛り上がり、本番の話は直ぐにずれてしまいましたが、こんな雰囲気で行けばよいと思いました。

講師になってくださる方に再度お願いに行くと、志賀町役場健康福祉課に聞いてみてと言われ、障がい者相談日が役場にある事を知りました。行く知っている方で、話をすると「場所は、インクルでそこを利用している利用者さんも、みんなと一緒にすればいい。お母さんたちも来て一緒にコーヒーや昼食食べていくといいよ」などと、とんとん拍子で話が進みました。これから細かいことを話し合い、子供さんたちの隠れている才能が引き出され、親子共に楽しい場所になるといいと思っています。



「親子でプラネタリウム見学」

珠洲市手をつなぐ育成会 若山 博行

先般10月29日に育成会で久々の親子参加行事で、柳田植物公園内の満天星(プラネタリウム)での星座の観察と天体望遠鏡の見学を開催しました。新型コロナで集合行事は中止していましたが、4年ぶりの行事となりました。星座観察では星座の種類や、北や南の夜空、星の位置など観察しました。観察が終わって2階の天体望遠鏡の見学では、直接触ったり、のぞき込んだりして、みんなで楽しく見学ができました。植物公園の売店でアイスクリームやコーヒーを飲みながらみんなで近況報告や、相談など楽しく過ごした一日でした。

久しぶりの親子行事で18名の参加でしたが、次回はもっと参加しやすい計画をしたいと思います。



月刊誌「手をつなぐ」



役立つ情報が満載です。

「手をつなぐ」は、知的障害のある当事者(本人・家族)に関しての教育・福祉・労働等の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。

年間購読料 3,900円 B5版 48ページ

購読のお申し込みは石川県手をつなぐ育成会まで！

TEL (076) 264-1717

FAX (076) 264-2434

講演会のご案内

日 時:令和6年2月17日(土)13:30~16:00
(受付13:00~)

場 所:石川県立図書館 文化交流エリア2階研修室

対 象:当事者、ご家族、育成会会員、相談員、
サポート協会会員、事業所職員、
特別支援学校PTA、
興味関心のある方



参加費:無料

テーマ:「手を離しても大丈夫~その日のために~」

講 師:日本福祉大学福祉経営学部教授

社会福祉法人睦月会理事長 綿 祐二 氏

講演会への参加を希望される場合は、石川県手をつなぐ
育成会へメールにて申し込みしてください。

E-mail:ikuseikai@p2222.nsk.ne.jp

障害のある方が歳を重ねた時..本人は?家族は?どうしますか?親離れ、子離れ、きょうだいの関りなど、不安や心配なことが尽きません。人生100年時代、知的障害や障害のある方々の将来や「親なきあと」の支援、緊急時の支援、人生の各ステージでやらなければならないことなど、について皆さまと一緒に考えます。

講師プロフィール

1964年愛知県生まれ。東京都立大学(現首都大学東京)、長崎国際大学助教授、文京学院大学・大学院を経て、現在、日本福祉大学福祉経営学部医療・福祉マネジメント学科学部長・教授。専門は「障害者福祉論」「福祉人材育成」「障害児者地域生活支援」など。社会福祉法人睦月会理事長として東京都内で障害者支援施設等の40事業を運営。

石川県育成会の会員になりませんか!

石川県手をつなぐ育成会は、知的障害のある本人たちの権利擁護を推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会づくりをめざしています。県育成会では、知的障害のある方々の社会的理解と社会自立ができるようにさまざまな活動・支援に取り組んでいます。

ぜひ、育成会の会員になって一緒に活動に取り組んでいきましょう。

正 会 員

障害のある方の保護者や家族

年会費 3,000円

賛 助 会 員

育成会活動を理解・応援して下さる学校、施設、

団体及びサポート協会会員

年会費 3,000円

特別賛助会員

育成会活動を理解・応援して下さる一般の方々 年会費 5,000円

詳しいことをお聞きになりたい方は、石川県手をつなぐ育成会事務局までお問合せください。TEL076-264-1717

第16号

石川県生活サポート協会だより

発行:石川県知的障害児者生活サポート協会

〒920-8557 金沢市本多町3-1-10 石川県社会福祉会館 石川県手をつなぐ育成会内

TEL076-264-1717 FAX076-264-2434

「安全に安心して暮らせる社会」

石川県知的障害児者生活サポート協会理事長 荒田 正信

平素は、石川県知的障害児者生活サポート協会の運営にご理解、ご支援を賜りましてありがとうございます。

今年は、近年にない高温が続く猛暑と植物の命を守ってくれる梅雨時期に雨が降らない空梅雨となり、自然界の異変の対応に苦勞されたことと思います。日常の体調管理の大切さ、必要性を再認識しました。

新型コロナウイルス感染症は今年の5月から5類感染症に変更となり、インフルエンザと同等に引き下げられ、様々な制限が緩和され、日常生活も徐々に取り戻しつつあります。しかしながらコロナ感染症が全くなかったわけではなく、生活サポート総合補償制度の給付対象も十数件ありました。重症リスクを抱えた障害のある人たちや事業所にとっては、引き続きコロナ感染症予防対策が求められております。一日でも早いコロナ感染症の終息を心より願っております。

石川県生活サポート協会は、各地域の本人活動グループへ助成を行っております。3年間続いたコロナ禍の厳しい制限の中で、各グループの活動維持に大変なご苦勞があったと思われまます。各地域において、グループ活動や運営を継続されてきた皆様に感謝を申し上げるとともに、今後も本人参加のグループ活動への支援を一層充実させていきたいと考えております。

アール・ブリュット展は、石川県生活サポート協会と石川県手をつなぐ育成会、石川県手をつなぐ育成会事業所協議会が共催で、3回目の開催を迎えました。皆様のご協力のおかげで、知的障害児者の作品に対する評価・認知度が高くなったように感じます。今年は、金沢市立玉川こども図書館で開催し、多くの方々に作品を鑑賞していただき、より一層理解が深まったように思います。ご協力いただきました出品者の皆様、運営管理の方々にお礼を申し上げます。そしてこれからも開催を継続していくことの大切さを感じております。

住み慣れた地域で、安全に安心して暮らせる生活を支援することを目的とした生活サポート総合補償制度は、入院給付金だけでなく、ケガ補償、個人賠償責任補償をする制度です。発足当初から児童期の皆様への説明・周知が不足していると指摘されておりました。これからはそういった課題を踏まえ、関係機関との連携をはじめ、特別支援学級や特別支援学校への丁寧な説明や周知を図っていくなど、皆様と一緒に考えて、創意工夫をしながら少しずつ制度の充実を目指していきます。

今後とも皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

石川県生活サポート協会は、各地区の「社会参加事業」を支援しています。



七尾鹿島「花植えボランティア」



珠洲市「除草作業ボランティア」



羽咋市「花植えボランティア」

石川県知的障害児者生活サポート協会とは

- ・石川県生活サポート協会は、石川県手をつなぐ育成会事務局内にある組織であり「知的障害児者、自閉症児者とその家族の生活上での安全・安心と福祉を推進する」といった目的で活動しております。
- ・前身は平成12年に保護者が立ち上げた「石川県育成会互助会」になります。当時は「病気やけがで入院することになった場合、付き添い看護や個室対応が必要な場合の差額費用等」については民間の生命保険では対応できず、知的障害者の入院は、その家族に金銭的、精神的な打撃となっていました。入院介護が長期化した場合、介護者として付添人が得られないことから、介護の負担が重くのしかかり家庭崩壊の危機がありました。
- ・この問題を解消するために、会員相互の助け合いと安い掛金で相互に扶助する「石川県育成会互助会」が設立されました。設立には、各施設、特別支援学校、各地区育成会の多大な支援と協力がありました。平成18年に現在の「知的障害児者生活サポート協会」に名称を変更し、理事には明和特別支援学校、小松特別支援学校、いしかわ特別支援学校のPTA 会長が就任して、当会を支えて頂いております。

「第3回アール・ブリュット展石川」開催！

石川県知的障害児者生活サポート協会は、石川県手をつなぐ育成会、石川県手をつなぐ育成会事業所協議会と共催で「第3回アール・ブリュット展石川」を6月21日(水)～25日(日)金沢市玉川こども図書館3階交流ホールで開催しました。作品制作に関わった方々はのべ618名、218作品を出品していただきました。絵画展を通して、障害のある人たちの表現活動を通じた社会参加と社会の理解を深める活動に取り組むことができました。今回、各地区育成会、事業所、特別支援学校の方々にご協力をいただき、本当にありがとうございました。



輪島市手をつなぐ育成会
梶井真智恵さんの作品「大切な日」



野々市市手をつなぐ育成会
藤田俊彦さんの作品「創」



石川県立小松特別支援学校
森武琉さんの作品「染アート」

「生活サポート総合補償制度」は、知的障害児者等を対象にした補償であり、プランによって疾病入院、ケガ、物損賠償などいろいろな生活場面に対応しております。卒業後の社会生活においても必要な補償となります。ぜひ総合補償制度加入へのご協力をよろしくお願いいたします。

総合補償制度への問い合わせは石川県生活サポート協会まで TEL076-264-1717



友達追加は
こちら



AIG損害保険代理店
ジェイアイシーセントラル株式会社

★生活サポート総合補償制度のお問い合わせはこちら

まーもんひろば

心身に障がいのあるお子様の親御様への
情報発信の場としてLINE公式アカウントです！



資料請求

LINEからパンフレットの
ご請求が可能です！



〒920-0024 金沢市西念4-18-40 NYビル3F TEL 076-223-0323/FAX 076-223-0368

第55回手をつなぐ育成会東海北陸大会愛知大会

表彰受賞おめでとうございます



藤部 敏夫 氏

〔石川県手をつなぐ育成会元理事
珠洲市手をつなぐ育成会前会長〕

「珠洲市ワークショップ椿」の設立に向け、関係機関への働きかけなどで障害福祉の向上に力を尽くした。

平成28年より会長に着任し、本人及び家族の福祉増進に力を注ぎ育成会活動の活性化に取り組み本人の自立と地域共生社会の実現に向け努力する姿は他の模範である。



茂腹 信子 氏

〔石川県手をつなぐ育成会元理事
志賀町手をつなぐ育成会前会長〕

富来、志賀町と合併する前、そして合併してからも長年にわたり、育成会副会長を務め、令和元年からは3年間、会長として会のために活躍してきた。

これまで会員さん宅への訪問そして親睦も深められ、より一層つながりを強く、育成会活動に躍動感を与えて会の発展のために尽力されてきた。



後田 幸平 氏

〔石川県手をつなぐ育成会理事
金沢手をつなぐ親の会副会長〕

平成16年8月から当法人の理事に就任。長年にわたり親の会活動および運営に携わり、積極的に助言をいただくなど、知的障がいの福祉増進に貢献している。

また平成25年度より、災害に対する意識を高めるため設置された金沢手をつなぐ親の会の防災委員会の長として、会員の方々とともに企画、委員会活動に取り組んでいる。

編集後記

今年度は、5月8日よりコロナ感染症が5類に移行となり、各地区における活動も適宜、以前の形態に戻つつあると推察しております。育成会活動は、これまでコロナ禍によって中止および延期が続いており、お互い顔を合わせて、ゆっくり話し合う機会がほとんどありませんでした。そのため会員同士の関係性が薄まってきたことはとても残念でした。これからは、会員同士が楽しく、有意義な活動を続けて会員ひとり一人のつながりや信頼関係を再構築していきたいと考えています。今回、育成会だよりを発刊するにあたって原稿の執筆など、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

事務局 江川周一